

授業科目 支援機器 II (コミュニケーション機器)

【担当教員名】 河合 俊宏		対象学年	2	対象学科	義肢
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○	○	◎	◎	
【概要・一般目標：G10】 運動機能障害、音声言語機能障害、聴覚障害などに起因するコミュニケーション障害は、コミュニケーション機器等を用いてコミュニケーション能力を代替または拡大することができる。授業では代表的機器である意思伝達装置、環境制御装置について習得し、合わせて関連する技術についても理解する。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション工学の概念とコミュニケーション機器・環境制御装置について説明できる。 2. 文字・座標等の選択方式について説明できる。 3. コミュニケーション機器と環境制御装置の実例について習得する。 4. 臨床応用例、機器と人間、環境との適合について説明できる。 5. リハ工学周辺技術とコミュニケーション機器との関係について説明できる。 6. 今後の研究開発課題について分析できる。 					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	リハ工学の歴史・概念			1	講義
2	リハ工学における、コミュニケーションの捉え方			1	講義
3	コミュニケーション能力開発			1	講義
4	コミュニケーションの代替・拡大			2	講義
5	リハ工学周辺技術と実際のアプローチ			3	講義
6	文字の選択			2	講義
7	文字の選択方法			2	演習
8	電子回路の基礎			1	講義
9	コミュニケーション機器の電子回路			1	講義
10	コミュニケーション機器と装具			3、4	演習
11	コミュニケーション機器の臨床評価			4	講義
12	福祉用具プランナーに必要なコミュニケーション・社会参加の定義			5	講義
13	環境制御装置の実際			4	講義
14	今後の研究開発課題			6	講義
15	まとめ（到達度評価）			6	質疑応答
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書		生活支援工学概論	日本生活支援工学会、日本リハビリテーション 工学協会	コロナ社	2013・2,800円+税
その他の資料		配布プリント			
【評価方法】 出席・授業内のレポート、演習の到達度		【履修上の留意点】 非常勤講師による講義です。原則土曜日の開講となります。授業日は不定期です。開講日に注意すること。 開講日の事前に欠席することが明らかな場合は、非常勤講師支援担当の助教まで書類提出し、後日指定される日までに単位認定のための課題をこなすこと。 事前の連絡が無い場合は、欠席とします。また部・サークル活動による欠席の場合も、課題提出が必要です。 出席しただけでは、単位認定しません。演習も含めた課題を出します。到達度で評価します。			